1-BIT THEATER SYSTEM

1ビットデジタルシアターシステム

形名 SD-AT1（エス ディー エイ ティー）

取扱説明書

お買いあげいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
ご使用の前に、**「安全に正しくお使いいただくために」**を必ずお読みください。
この取扱説明書は、保証書とともに、いつでも見ることができるところに必ず保存してください。

もくじ

1章 はじめに

ページ

2章 接 続

ページ

3章 準 備

ページ

4章 基 本（すぐに楽しむ）

ページ

5章 応用（さらに進んだ使いかた）

ページ

6章 参考

ページ

AAC は正式名称を MPEG-2 Advanced Audio Coding といい、MPEG-2 仕様の一部として標準化された音声圧縮技術です。以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

付属品について

付属品がすべてそろっているか、お確かめください。

リモコン送信機×1

単3乾電池×2
（リモコン送信機用）

取扱説明書（本書）×1
操作早見表×1
保証書×1

FM用アンテナ×1

AM用ループアンテナ×1

スピーカー用すべり止め
シート×1（20個入り）

フロント
スピーカー「左」用
（約5m）

センター
スピーカー用
（約5m）

フロント
スピーカー「右」用
（約5m）

サブウーハー用
（約5m）

サラウンド
スピーカー「左」用
（約15m）

サラウンド
スピーカー「右」用
（約15m）

スピーカーコード×6

カタログおよび包装箱などに表示されている形名の最後のアルファベットは製品の色を示す記号です。色は異なっても、操作方法や仕様は同じです。

おもな特長

高解像度サウンドを実現する
1ビットデジタルアンプを採用！

1秒間に約280万回（約2.8MHz）の高速サンプリングにより、音の分解能力を向上しています。音の伝送／増幅を1ビットデジタル信号で行い、音の立ち上がりや滑らかさを高品位に再現するほか、アナログ信号での処理に比べ音質劣化の少ないクリアーな音質を実現します。

1ビット5.1chデジタルアンプで
高音質＆総合600Wの大迫力を実現！

総合600Wの1ビットデジタルアンプにより、映画や音楽を歯切れの良い臨場感あふれるサウンドを大迫力で楽しめます。

いろいろなサラウンドを楽しめる
各種デコーダーを搭載！

5.1chのサウンドを高音質で楽しめる、ドルビーデジタル方式、DTS方式やBSデジタル/地上デジタル放送のAAC方式に対応した各種デコーダーを搭載しています。さらに、地上アナログ放送やビデオテープなどの2chステレオ音声を5.1chサラウンドに変換するドルビープロロジックⅡデコーダーも搭載しています。

高音質5.1chスピーカーで
リビングが劇場に変身！

小型ながら高性能なスピーカーを採用していますので、高音質で迫力あるサウンドを楽しめます。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。その表示を無視して誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。
内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

	人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。
⚠ 注意	**人がけがをしたり財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています。**

図記号の意味

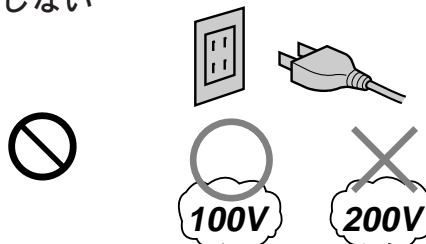
この記号は**気をつける必要がある**ことを表しています。

この記号は**してはいけない**ことを表しています。

この記号は**しなければならない**ことを表しています。

⚠ 警告

電源について

AC100V 以外の電源電圧では使用しない

火災・感電の原因となります。

外国では使用しない

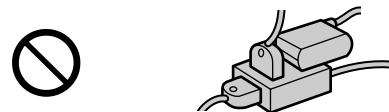
この製品を使用できるのは日本国内のみで、外国では電源電圧が異なりますので使用しないでください。
(This unit cannot be used in foreign countries as designed for Japan only.)

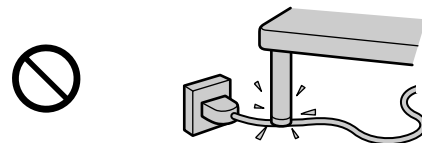
雷について

雷が鳴りだしたら…
安全のため、製品にさわらないでください

感電の原因となります。

電源コードについて

タコ足配線はしない

発熱により、火災の原因となります。

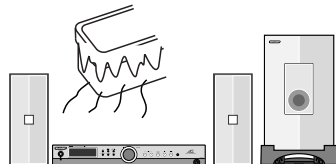
コードを傷つけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったり、加熱したり、加工したり、重い物を乗せたりしない

電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

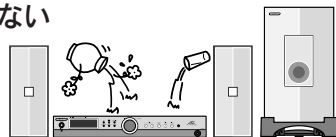
電源コードが傷ついたときは…
販売店に交換をご依頼ください

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

⚠警告

内部に物や水などを入れない

風呂場や雨にあたるところ、湿気の多いところでは使用しない

火災・感電の原因となります。

近くに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ると、火災・感電の原因となります。

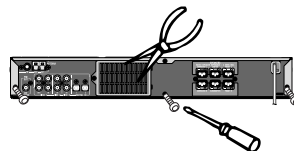
開口部（バスレフダクトなど）から金属類や燃えやすい物などを入れない

火災・感電・けがの原因となります。
特にお子様のいる家庭ではご注意ください。

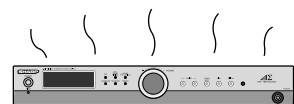
内部に水や異物などが入ったときは…
電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

キャビネットについて

キャビネットを開けたり、改造しない

火災・感電・けがの原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

高温部への接触について

使用中は、内部から発生する熱により、本体表面が熱くなります

長時間触れていると、やけどの原因となることがあります。
特にお子様のいる家庭ではご注意ください。
また、長時間使用するときは、放熱に注意してください。（☞ P.19）

異常が起きたら

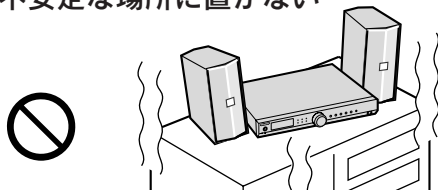
万一、異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするなどの異常な状態に気がついたときは…
電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください

異常な状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。

安全に正しくお使いいただくために（続き）

⚠注意

置き場所について

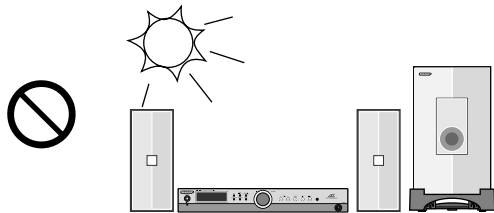
不安定な場所に置かない

落ちたりして、けがや故障の原因となることがあります。

油煙や湯気が当たるような場所に置かない

火災・事故の原因となることがあります。

冷気が直接吹きつけるところや、極端に寒い場所に置かない

露がつき、漏電・焼損の原因となることがあります。

直射日光が長時間あたる場所や、暖房器具の近く、火気の近くには置かない

火災・事故の原因となることがあります。

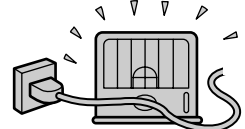
電源コードの取り扱いについて

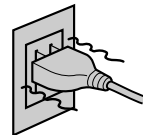
プラグを抜くときはコードを引っぱらない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

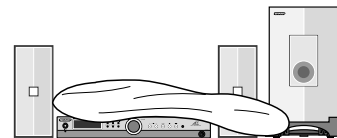
濡れた手でプラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近づけない

コードの被覆がとけて、火災・感電の原因となることがあります。

コンセントへの差し込みがぐらついていたり、プラグやコードが熱いときは使用を中止してください

火災・感電の原因となることがあります。

ご使用について

風通しの悪い状態で使用しない
また、布や布団でおおったり、つつんだりしない

熱がこもり、キャビネットが変形し、火災の原因となることがあります。

製品の上に乗らない

踏み台や腰かけのかわりに使わないでください。倒れたりこわれたりして、けがの原因となることがあります。
特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。

ヘッドホンで聞くときは

音量の設定に十分気をつける

思わぬ大音量がでて、耳を痛める原因となることがあります。
また、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

移動するときは

電源を切り、電源コードやアンテナ線、接続コードを抜いてください

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

機器の接続について

他の機器を接続するときは、指定のコードをお使いください

テレビなど　本体

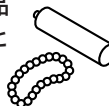
接続するときは、必ず電源を切り、他の機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
また、付属のコードや指定以外のコードを使用すると、故障の原因となります。

外部アンテナの工事について

アンテナ工事には技術と経験が必要です。また、高いところでの作業は危険です。取り付ける場合は、販売店に相談してください。

乾電池の取り扱いについて

乾電池は誤った使いかたをしますと、感電・破裂・発火の原因となることがあります。また、液もれをして機器を腐食させたり、手や衣類などを汚す原因にもなります。次の点に特に注意してください。

- **新しい乾電池と一度使用した乾電池をまぜて使用しない**
- **金属小物（かぎ・装飾品ネックレス・コイン等）といっしょにポケットやかばんなどに入れない**
- **水に濡らさない**
- **加熱したり、火の中へは絶対に投げ込まない**
- **分解しない**
- **ハンダ付けしない**
- **端子をショート（短絡）させない**
- **種類のちがう乾電池をまぜて使用しない**
- **充電池（ニカド電池等）は使用しない**

- **乾電池が使えなくなったり、長い間使わないときは、乾電池を全部取り出しておいてください。**

- **乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを、表示どおり正しく入れてください。**

もし、液がもれた場合は、リモコンについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

お手入れのときは

安全のため必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください

感電やけがの原因となることがあります。

長期間ご使用にならないときは

安全のため必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください

壁掛け等で使うときは

スピーカーを壁に掛けたり、スタンドに取り付けたりするときは、必ず指定の壁掛ブラケットやスタンドを使用してください。（☞ P.37）
強度が足りないと落ちたりして、けがや故障の原因となることがあります。

- この製品は厳重な品質管理と検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、お買いあげの販売店またはもよりのシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。（☞ P.39）
- お客様または第三者がこの製品の使用誤り、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いません。

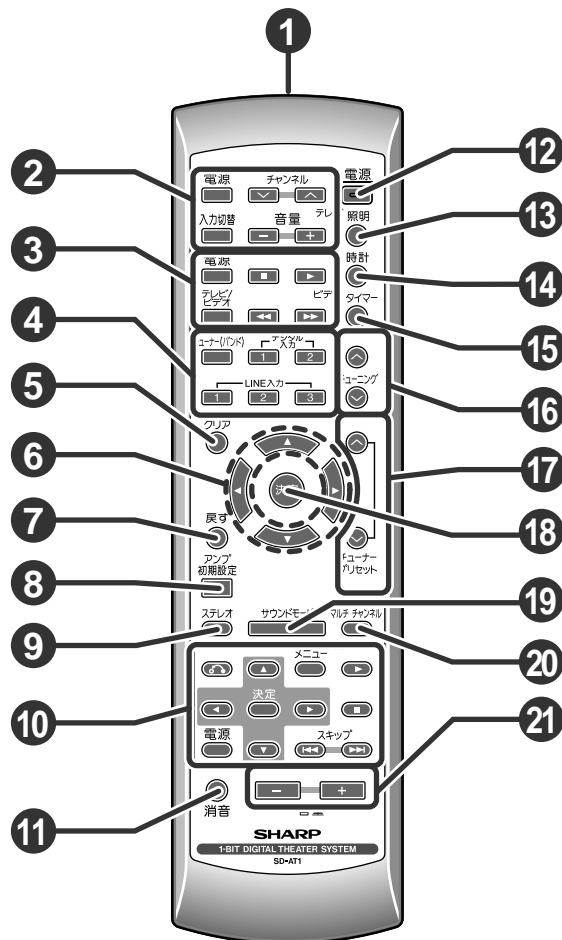
各部のなまえ

本体（正面）

本体（背面）

	参照ページ
① **FM アンテナ端子**（FM 75 OHMS）	15
② **アース端子**（GND）	15
③ **AM アンテナ端子**（AM）	15
④ **空冷ファン**	19
⑤ **スピーカー端子**（SPEAKERS）	14
⑥ **電源コード**	17

	参照ページ
⑦ **サブウーハー出力端子**（SUB WOOFER PRE OUT） （アンプを内蔵しているサブウーハーを接続します。）	33
⑧ **音声出力端子**（LINE 1 OUT）	16
⑨ **音声入力端子**（LINE 1 IN/LINE 2 IN/LINE 3 IN）	16、17
⑩ **デジタル音声入力端子（光）**（DIGITAL IN 1/2）	16

各部のなまえ（続き）

リモコン

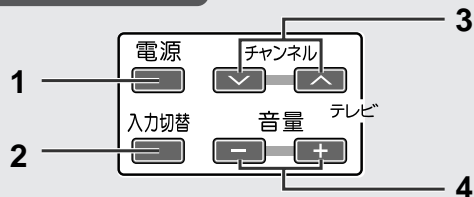
参照ページ

1. リモコン送信部 19
2. テレビ操作ボタン 11
3. ビデオ操作ボタン 11
4. 入力切換ボタン（チューナー/バンド、デジタル入力 1/2、LINE（ライン）入力 1/2/3）............ 22、24
5. クリアボタン 23
6. メニュー選択ボタン（◀ ▶ ▲ ▼）............ 21、28
7. 戻すボタン 28
8. アンプ初期設定ボタン 28
9. ステレオ（2ch）切換ボタン 26
10. DVD 操作ボタン 11
11. 消音ボタン 20
12. 電源ボタン 20
13. 照明ボタン 20
14. 時計ボタン 21
15. タイマーボタン 30
16. チューニングボタン（∨チューニング∧）............ 22
17. チューナープリセットボタン（∨プリセット∧）............ 23
18. 決定ボタン .... 21、23、28
19. サウンドモード切換ボタン 27
20. マルチチャンネル切換ボタン 26
21. 音量調整ボタン（−音量+）............ 20

各部のなまえ

本製品のリモコンで、シャープ製のテレビ・ビデオ・DVD の一部機能を操作することができます。
ただし、シャープ製のテレビ・ビデオ・DVD でも、一部の機種は、操作できないものがあります。

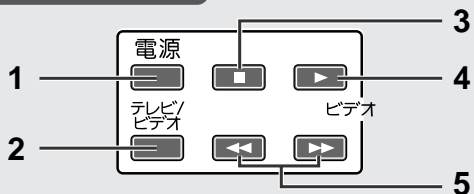
テレビ操作ボタン

電源
チャンネル
入力切替
音量
テレビ

1 **電源ボタン**
テレビの電源を「入」、「切」するときに使います。

2 **入力切替ボタン**
テレビの入力を「テレビ」、「ビデオ」などに切り替えるときに使います。

3 **チャンネル切換ボタン**
テレビのチャンネルを合わせるときに使います。

4 **音量調整ボタン**
テレビの音量を調整するときに使います。

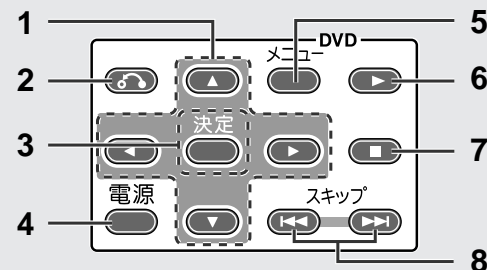
ビデオ操作ボタン

1 **電源ボタン**
ビデオの電源を「入」、「切」するときに使います。

2 **入力切替ボタン**
ビデオの入力を「テレビ」、「ビデオ」などに切り替えるときに使います。

3 **停止ボタン**（■）
ビデオを停止するときに使います。

4 **再生ボタン**（▶）
ビデオを再生するときに使います。

5 **巻戻し、早送りボタン**
（◀◀ ▶▶）
ビデオを巻き戻したり、早送りするときに使います。

DVD 操作ボタン

1 **メニュー選択ボタン**
（◀ ▶ ▲ ▼）
DVD のメニューを選ぶときに使います。

2 **戻すボタン**（↶）
DVD のメニューを解除するときや、1つ前の画面に戻すときに使います。

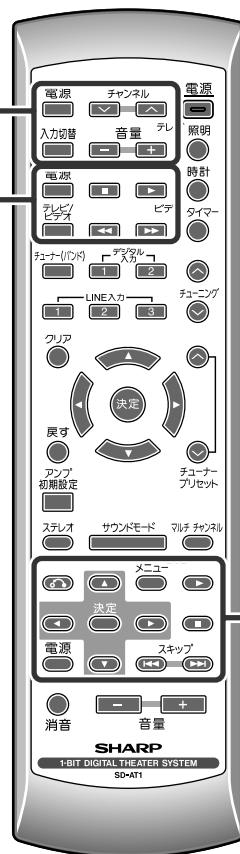
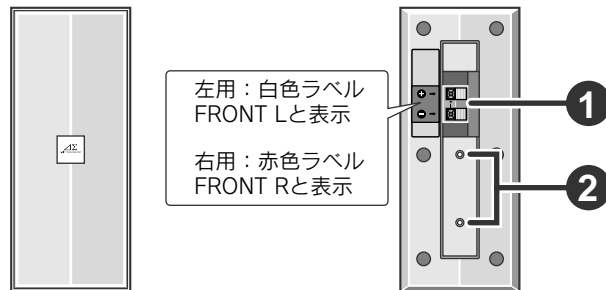
3 **決定ボタン**
DVD のメニューを決定するときに使います。

4 **電源ボタン**
DVDの電源を「入」、「切」するときに使います。

5 **メニューボタン**
DVD のメニューを表示するときに使います。

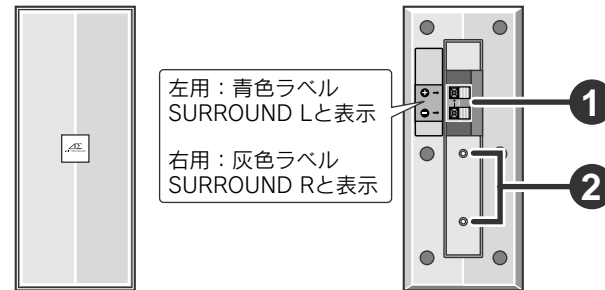
6 **再生ボタン**（▶）
DVD を再生するときに使います。

7 **停止ボタン**（■）
DVD を停止するときに使います。

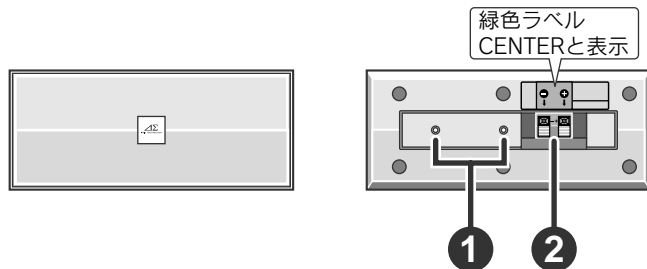
8 **スキップボタン**
（|◀◀ ▶▶|）
DVD のチャプターを戻したり、送ったりするときに使います。

各部のなまえ（続き）

フロントスピーカー× 2

参照ページ

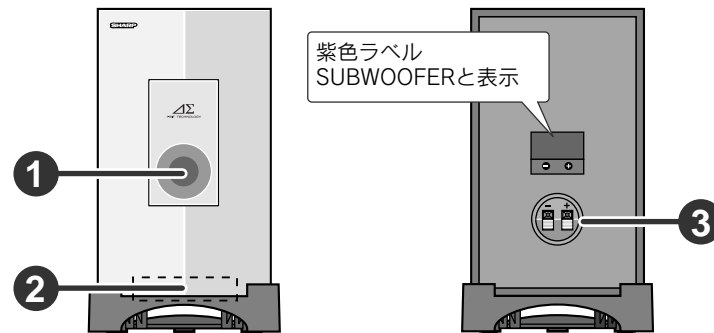
① スピーカー端子 14
② スタンド、壁掛け用スピーカーブラケット
（別売品）取り付け穴 37

サラウンドスピーカー× 2

参照ページ

① スピーカー端子 14
② スタンド、壁掛け用スピーカーブラケット
（別売品）取り付け穴 37

センタースピーカー× 1

参照ページ

① 壁掛け用スピーカーブラケット
（別売品）取り付け穴 37
② スピーカー端子 14

サブウーハー× 1

参照ページ

① バスレフダクト
② ウーハー
③ スピーカー端子 14

各スピーカーの働きついて

スピーカーの設置方法については、18 ページをごらんください。

ご 注 意

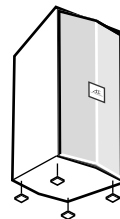
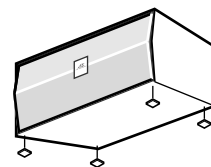
付属のスピーカーは、SD-AT1 専用です。付属のスピーカーを他の機器に接続しないでください。また、他のスピーカーを SD-AT1 に接続しないでください。故障の原因となります。

お知らせ

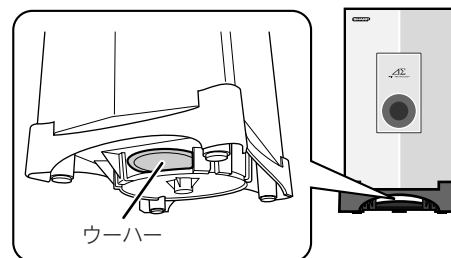
- バスレフダクトの中には、物を入れないでください。
- スピーカーの上に座ったり、立ったりしないでください。けがの原因となることがあります。
- スピーカーネットは取り外しができません。
- フロントスピーカー、センタースピーカー、サブウーハーは防磁設計です。

スピーカー用すべり止めシートについて

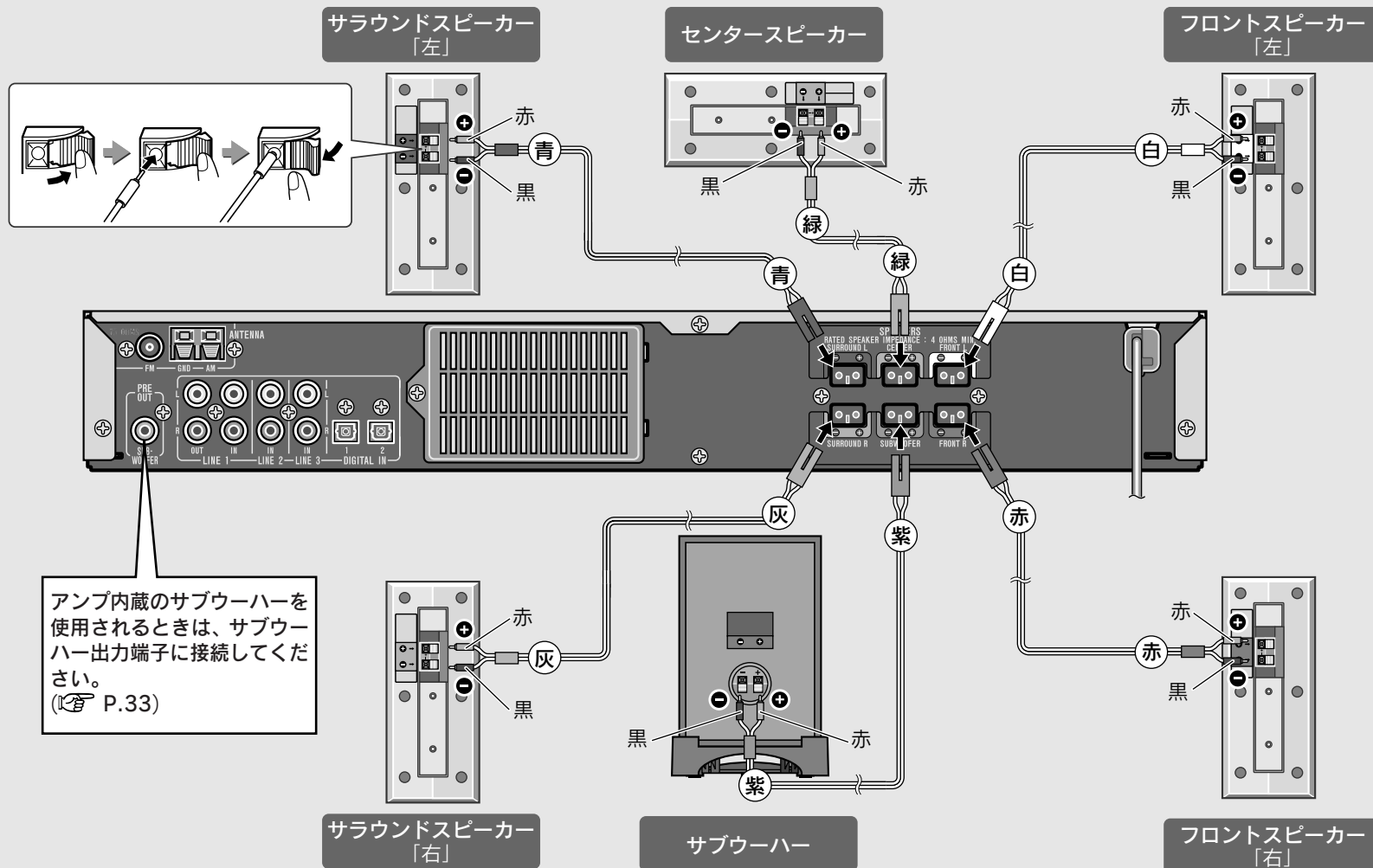
フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーは、縦や横に設置することができます。
すべり止めシート（付属品）をフロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーの底面に貼り付けてください。
振動によるすべりを防ぎます。

縦置きの場合

横置きの場合

すべり止めシートを付属していますので、1 つのスピーカーに 4 つずつお使いください。

■ サブウーハーを持ち運ぶときの注意

持ち運ぶときは、サブウーハーの底面を持ってください。
このとき、下部にあるウーハーに触れないように注意してください。
ウーハーが破損する原因となります。

スピーカーを接続する

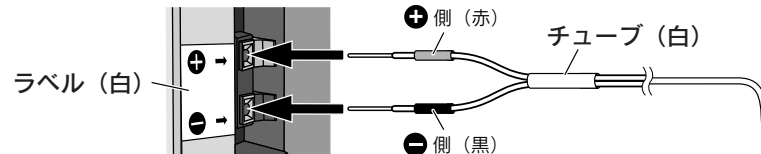
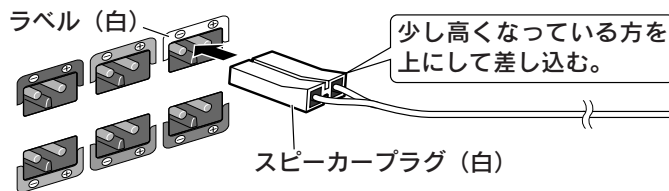
接続するときは、必ず電源コードを抜いてから行ってください。

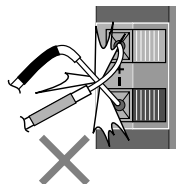
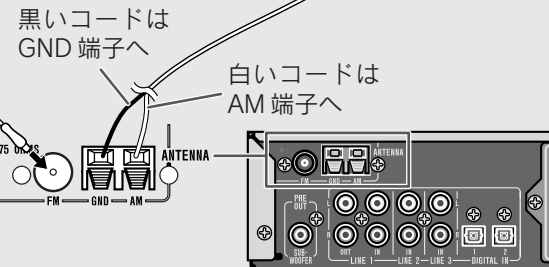
本体のスピーカー端子、スピーカーコードのチューブとプラグ、スピーカーのラベルはそれぞれ色分けをしています。
同じ色どうしで本体とスピーカーを接続します。スピーカーの設置方法については、18 ページをごらんください。

アンテナを接続する

■ スピーカーコードの接続方法

スピーカー側を先に接続し、そのあと本体側を接続してください。
接続の際には、スピーカーコードの先端が隣の端子にふれることのないよう、確実に固定してください。(⊕と⊖がふれるとショートします。)

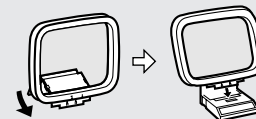
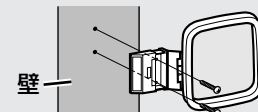
例）フロントスピーカー「左」を接続するとき

① スピーカーのラベルの色（白）を確認して、同じ色のチューブ（白）がついているスピーカーコードをスピーカーにつなぐ。

② 本体側のラベル（白）を確認してもう一方のスピーカープラグ（白）をつなぐ。

ご 注 意

- **この製品のスピーカー端子のマイナス（－）側は、その他のアース（GND）とは、回路が独立しています。スピーカーコードの先端（金属部分）を本体のアース（GND）に触れないよう、注意してください。**
- スピーカー端子と本体のアース（GND）がショートすると、故障の原因になります。また、スピーカー端子には、スピーカー以外の機器（セレクターなど）を接続しないでください。
- スピーカープラグには上下の方向があります。まちがえないように差し込んでください。また、プラグは最後まで確実に差し込んでください。
- スピーカープラグを本体から外すときは、プラグを持って抜いてください。コードを持って抜くと故障の原因となります。
- スピーカーコードの ⊕（プラス）と ⊖（マイナス）、左右をまちがえないように接続してください。
- **スピーカーコードをショートさせないでください。**
電源が入っているときに、誤ってスピーカーコードをショートさせてしまうと、保護回路が働いて電源が切れることがあります。このときは、スピーカーコードが正しく接続されていることを確かめたあと、再び電源を入れてください。

AM 用ループアンテナの取り付けかた：

組み立てかた

壁に取り付けるとき

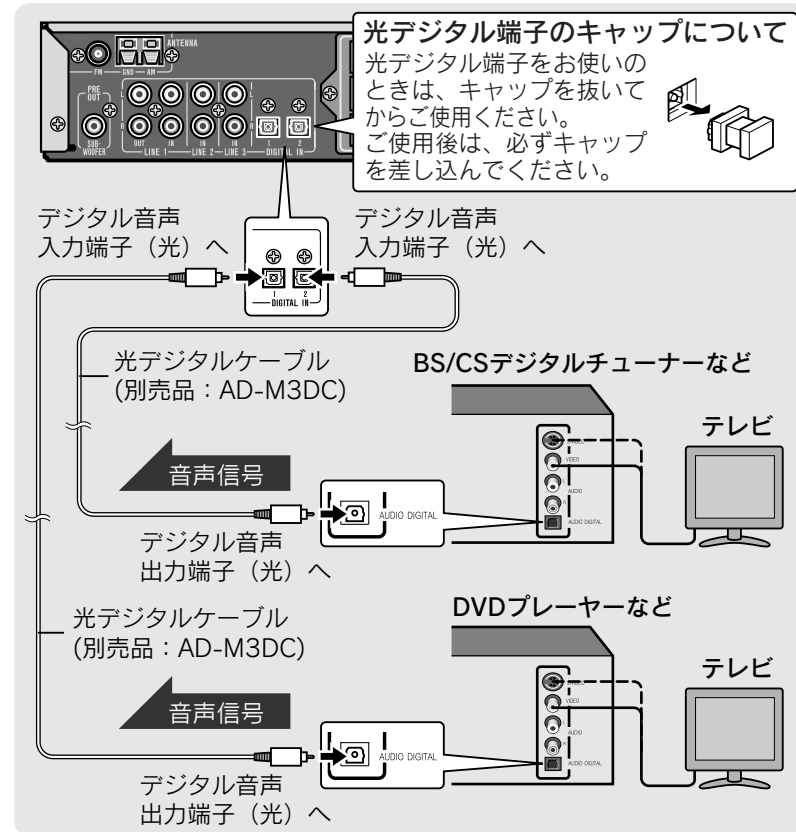
壁

ネジは付属していません。

お知らせ

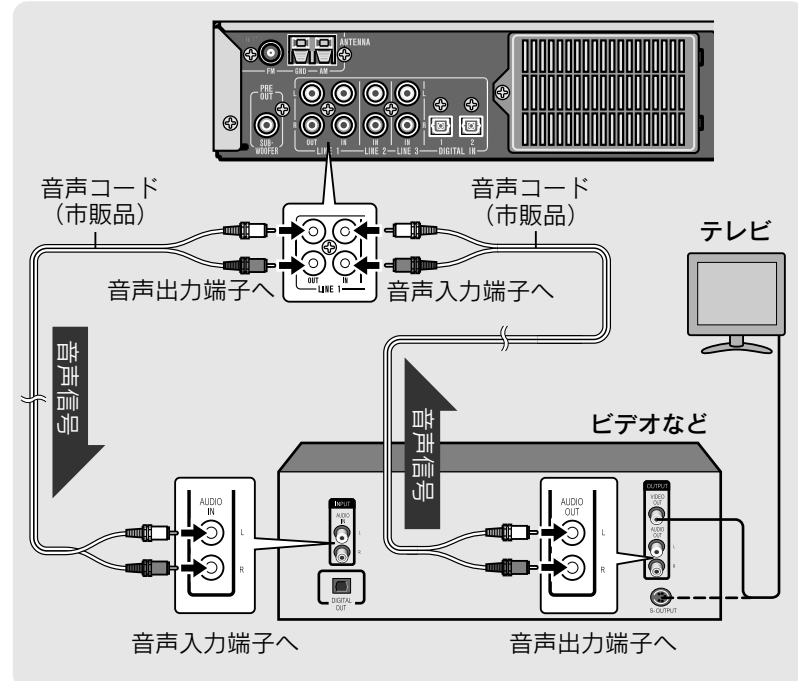
- FM・AM 用アンテナは、本体や電源コード、スピーカーコードから離してください。近づけて使用すると、雑音が入ることがあります。
- 付属のアンテナでラジオ放送がきれいに聞こえないときは、屋外アンテナを設置することもできます。(☞ P.33)

DVD、ビデオ、テレビなどを接続する

接続するときは、それぞれの機器の電源コードを抜いてから行ってください。

■ DVD プレーヤーなど

お知らせ

- BS/CS デジタルチューナーの AAC サラウンドは、デジタル音声を入力したときのみ働きます。
- DVDプレーヤーやデジタルチューナー、ビデオの映像信号は、テレビに直接つないでください。（接続方法は、それぞれの機器の取扱説明書をごらんください。）

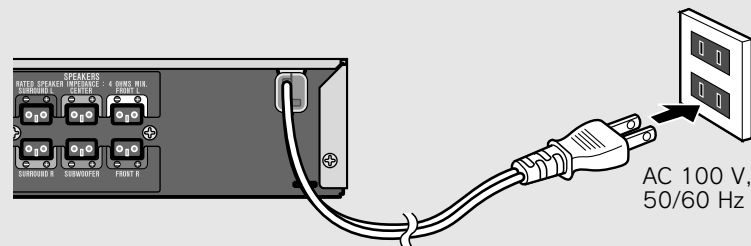
■ ビデオなど

お知らせ

- 本機の LINE 1 OUT 端子からは、LINE 2 IN 端子と LINE 3 IN 端子、内蔵のラジオチューナーからの信号が出力されます。DIGITAL IN 1/2端子と LINE 1 IN 端子からの信号は出力されません。
- 本機の LINE 2 IN 端子、LINE 3 IN 端子、内蔵のラジオチューナーからの信号を LINE 1 OUT 端子から出力するときは、ステレオモードの設定を「**STEREO**」にしてください。（☞ P.26）
マルチチャンネルモードなどにしていると、信号が正しく出力されないことがあります。

■ テレビやその他の機器

テレビなどの音声がこの製品のスピーカーからサラウンド音声でお楽しみいただけます。

■ 電源コードを接続する

各機器の接続が終わったら、電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。

節電のために

旅行などで長時間使用しないときは、電源コードをコンセントから抜いておきましょう。電源を切っていても、わずかですが電力を消費しています。
(長時間電源コードを抜いていると、登録した内容は消え、各種の設定はお買いあげ時の状態に戻ります。)

お知らせ

- 光デジタルケーブルや音声コードは付属されていません。
  別売品または市販品をお買い求めください。
- 音声コードは、抵抗の入っていないものをお買い求めください。
  抵抗の入っている音声コードを使うと音が小さくなります。
- 各プラグは最後までしっかり差し込んでください。
  雑音の原因となります。
- 接続する機器の取扱説明書も合わせてごらんください。

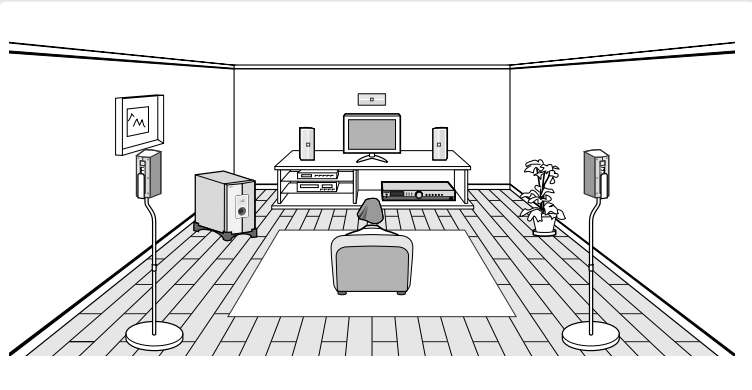
ご 注 意

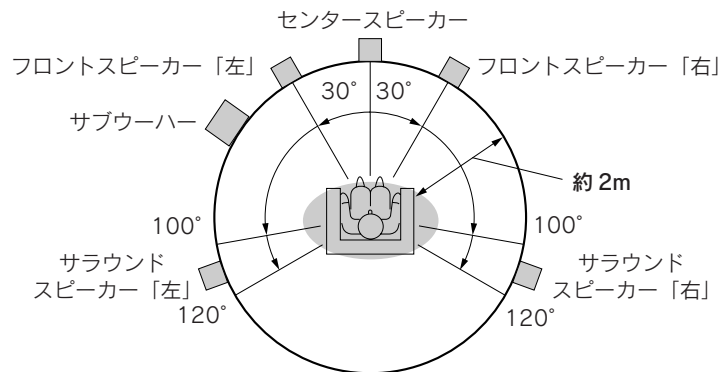
電源コードを抜くときは、電源を切ってからプラグを持って抜いてください。

本体とスピーカーの設置のしかた

■ スピーカーを配置するとき

サラウンド効果を十分に引き出すために、各スピーカーはお聞きになる位置からなるべく等距離に配置してください。

各スピーカーの設置イメージです。

別売のスピーカースタンドや壁掛け用スピーカーブラケット(☞ P.37)を使用した例です。取り付けかたは、それぞれの取扱説明書をごらんください。

図のような角度に配置することをおすすめします。

各スピーカーを等距離（約 2m）に配置できないときは、「スピーカーディレイやスピーカー音量レベルを調整する」をごらんください。(☞ P.28)

お知らせ

- フロントスピーカーは、テレビを中心として左右に配置してください。
- センタースピーカーは、テレビの近くに置くことをおすすめします。
- サラウンドスピーカーは、耳の高さよりやや高い位置に配置してください。
- サブウーハーからは低音が出ますので、振動しにくいしっかりした床に配置してください。
- サブウーハーの低音は指向性が少ないため、設置位置をあまり限定しません。できるだけ左右フロントスピーカーの近くに置くことをおすすめします。

ご 注 意

サブウーハーは本体や他のスピーカーと同じテーブルなどに設置しないでください。振動でテレビや本体などが動いたり、テレビ画像が乱れたり、音がとぎれたりすることがあります。

防磁スピーカーについて

フロントスピーカーとセンタースピーカー、サブウーハーは防磁対応されていますので、テレビの前や横に置くことができます。ただし、使うテレビによっては、テレビ画面に色ムラが生じることがあります。

テレビ画面に色ムラがおきたら…

いったんテレビの電源を切り、15 ～ 30 分後に再び電源を入れてください。

それでも色ムラが残るときは…

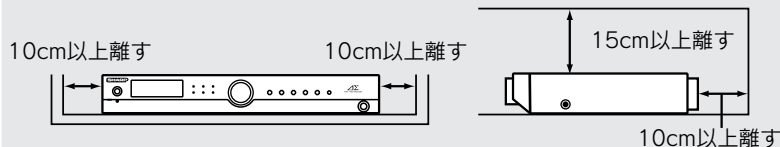
スピーカーをさらにテレビから離してください。

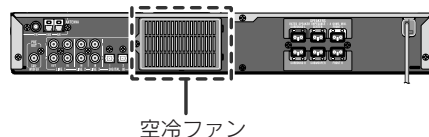
近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビ画面に色ムラが生じることがありますので、設置にご注意ください。

お知らせ

サラウンドスピーカーは、防磁対応ではありません。

■ 本体を配置するとき

**本体の天面や背面、側面は熱くなります。
放熱をよくするため、本体の間は次のように離して置いてください。**

空冷ファンについて

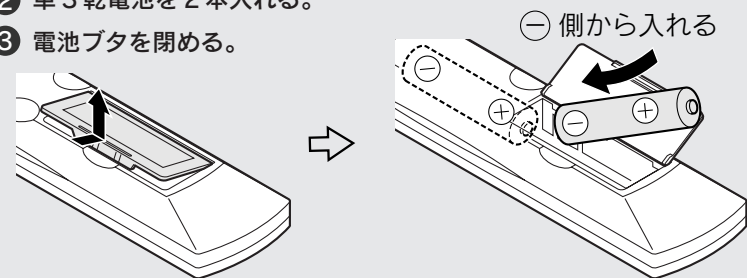
本体の背面には、放熱をよくするために空冷ファンを内蔵しています。
空冷ファンは、電源を入れると自動的に回転するようになっています。
ファンの部分を物でふさがないように注意してください。

高温部への接触について

使用中は、内部から発生する熱により、本体表面が熱くなります。長時間触れていると、やけどの原因となることがあります。特にお子様のいる家庭ではご注意ください。

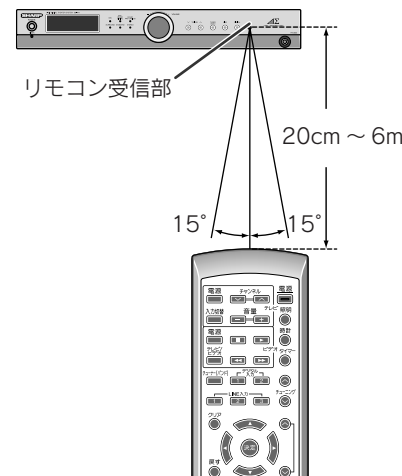
お知らせ

- この製品は、5℃～35℃の場所でお使いください。
- テレビ・パソコンなどの機器の近くで使用すると、それらの機器やこの製品に雑音が入ることがあります。
  そのときは、それらの機器の電源を切るか、この製品との距離をできるだけ離してください。
- この製品の近くで携帯電話を使用すると、この製品が誤作動することがあります。また、携帯電話やこの製品に雑音が入ることがあります。

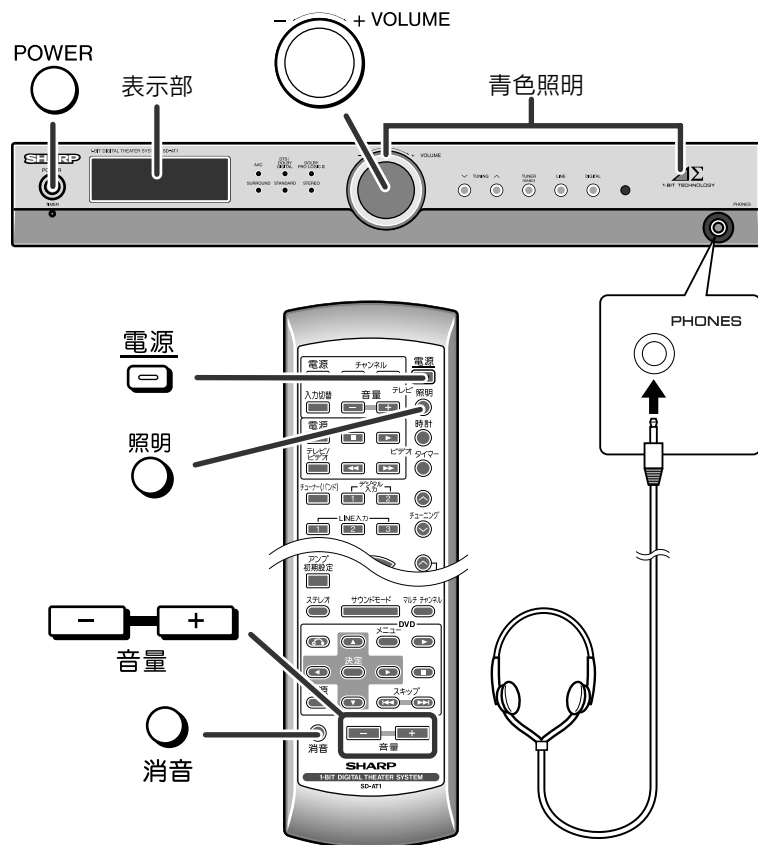
■ 乾電池を入れる

❶ 電池ブタを開ける。
❷ 単３乾電池を２本入れる。
❸ 電池ブタを閉める。

ご 注 意

- 乾電池の方向に注意して入れてください。
  ⊕、⊖をまちがえると、故障の原因となります。
- リモコンには充電池（ニカド電池など）を使用しないでください。
  充電池では正しく動作しません。

リモコンの使える範囲（目安）

リモコン用乾電池の寿命は通常のご使用で約１年です。
リモコン受信部に近よらないと動作しなくなったときは、乾電池を交換してください。

- リモコン受信部に強い光があたる場所では使用しないでください。誤動作の原因となります。
- リモコン受信部や送信部にシールなどを貼ったり、本体とリモコンの間には障害物などを置かないでください。
  リモコンの操作ができなくなることがあります。

基本的な使いかた

■ 電源を入れたり、切るには

POWER を押す。もう一度 POWER を押すと、電源が切れます。

電源が入らないときは、電源コードが正しくつながっているか確認してください。

- 電源を切ったあとの数秒は、すぐに電源が入りません。
- リモコンの 電源 を押しても操作できます。

■ 表示部の明るさを変える（2 段階）

暗くなる

リモコンの 照明 を押すと、表示部の明るさを変えることができます。
"DIMMER"（ディマー）に設定すると、本体の表示部は暗くなります。このとき、本体の青色照明は消灯します。

■ 音量を調整する

を右に回すと、音量は大きくなり、左に回すと、音量は小さくなります。

リモコンのときは、＋ 音量 を押すと、音量は大きくなり、− 音量 を押すと、音量は小さくなります。

VOLUME 2

音量0（小）〜音量40（大）

■ 一時的に音を消す

リモコンの 消音 を押すと、一時的に音が消えます。

- もう一度押すと、もとの音量に戻ります。
- 音量を調整しても解除できます。

■ ヘッドホンを使う

ヘッドホンをつないだり、抜いたりするときは、音量を下げておいてください。
インピーダンス 16 〜 50 Ω（推奨 32 Ω）で、直径 6.3mm ステレオ標準プラグ付のヘッドホンをお使いください。

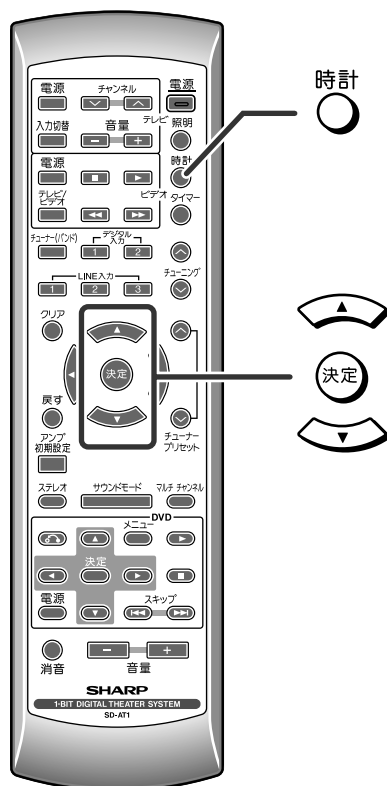
- **ヘッドホンからサラウンドの効果音は得られません。**
- ヘッドホンをつなぐと、すべてのスピーカーから音は出なくなります。
- プラグは確実に差し込んでください。
- 他の機器で録音しているときは、ヘッドホンを抜き差ししないでください。音とびの原因となります。

音のエチケット

- 楽しい音楽も場所によっては気になるものです。ご近所のご迷惑にならないよう、十分気をつけましょう。
- 夜間にお使いになるときは、ご近所のご迷惑にならないよう、音量を小さくするか、ヘッドホンでお楽しみください。
- ヘッドホンをご使用になるときは、耳をあまり刺激しないよう音量を小さくしてお楽しみください。

時計の合わせかた

時刻を合わせると、時計としてはもちろん、タイマーが使えるようになります。

電源が「切」のときでも時計を合わせることができます。

（例）午前9時30分に合わせるとき

時刻を確認するには

時計 を押す。

時刻を約5秒間表示します。

時刻を修正するには

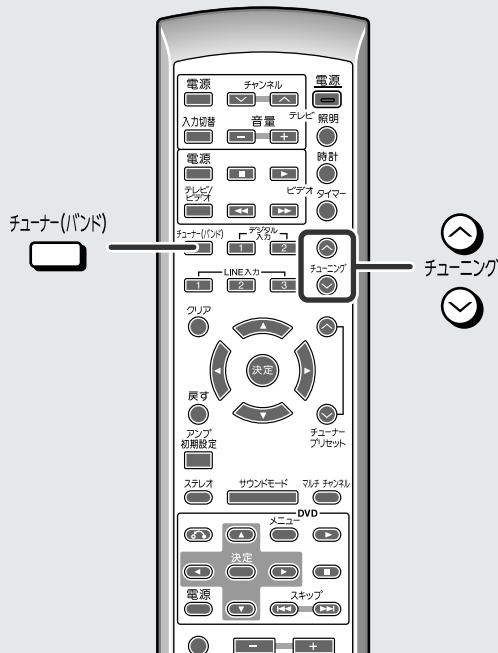
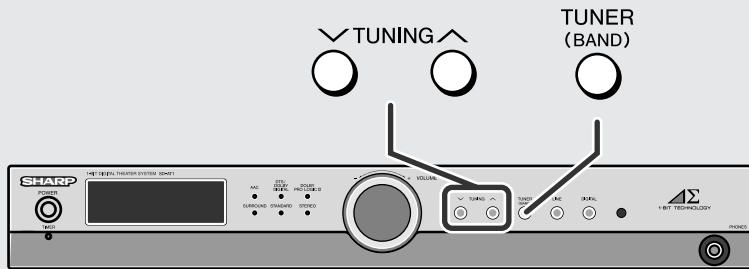
操作❶からやり直してください。

お知らせ

電源コードを抜いたり、停電があったときなどは、時計の設定は消えてしまいます。時刻を確認したときに "ADJUST（アジャスト）" が点滅します。そのときは、時計を合わせ直してください。

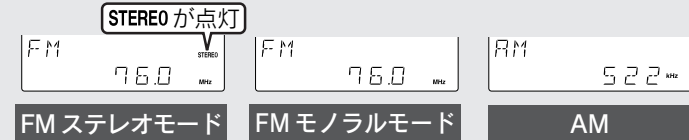
ラジオ放送を聞く

チューナー(バンド)

チューニング

1

電源を入れたあと…

TUNER (BAND) を押して、"FM STEREO(ステレオ)"、"FM" または "AM" を選ぶ。

2

∨TUNING または TUNING∧ を押して、放送局を選ぶ。

自動同調：ボタンを 0.5 秒以上押し続けて離すと、電波の強い放送局を自動的に受信します。

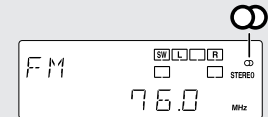
手動同調：ボタンを小きざみに押して、希望する放送局を受信します。

テレビ音声は次の周波数で受信できます。

1 チャンネル：FM 95.75MHz　3 チャンネル：FM 107.75MHz

2 チャンネル：FM 101.75MHz

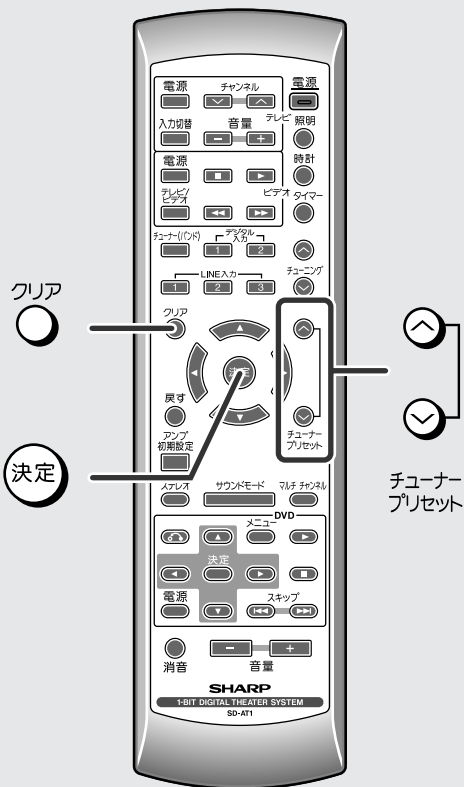
FM ステレオ放送の受信について

FM ステレオモードで、FM ステレオ放送を受信すると、"ↀ" が点灯します。

FM ステレオ放送を受信しても電波が弱いと "ↀ" が点灯しません。
このときは、音が出ませんので、FMモノラルモードに切り換えてください。

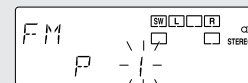
お知らせ

- リモコンの チューナー(バンド)、チューニング∧、チューニング∨ を押しても、操作することができます。
- 自動同調しているとき、周囲に妨害電波があると、そこで停止することがあります。そのときは、手動同調をお使いください。
- この製品のテレビ音声受信回路は、FM 放送受信回路と兼用しています。このため、地域によっては、テレビの 2 または 3 チャンネルの音声を受信したときに、FM 放送が混信することがあります。
- テレビ音声多重放送は受信できません。
- テレビ音声や AM 放送は、モノラルで受信されますので、ステレオにはなりません。

放送局を登録する

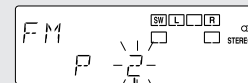
AM 放送・FM 放送を合わせて、40 局まで登録できます。

1

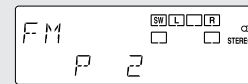
登録したい放送局を受信したあと…

決定を押して、登録モードにする。

FM 放送のときは、ステレオ・モノラルのモードも登録されます。

2

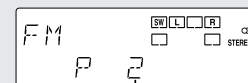
5 秒以内に…

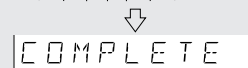
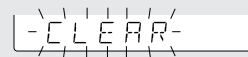
チューナープリセット(∨)またはチューナープリセット(∧)を押して、登録する番号を選ぶ。

3

5 秒以内に…

決定を押す。

- 放送局が登録されます。
- すでに登録されている番号に登録すると､前の登録内容は消えます。
- 他の放送局を登録するには、操作 1 からの手順をくり返します。

登録した放送局を呼び出すには

チューナープリセット(∨)またはチューナープリセット(∧)押して、登録した番号を選ぶ。

登録した放送局をすべて消すには

1. クリアを 3 秒以上押す。
2. 10 秒以内に… 決定を押す。

お知らせ

電源コードを抜いていたり、停電になっても、約 2 ～ 3 時間は登録した内容を覚えています。（バックアップ機能）
登録した放送局が消えたときは、もう一度登録し直してください。

4 章 基本 放送局を登録する

DVDやビデオなどの再生音を聞く

電源

デジタル入力 1 2

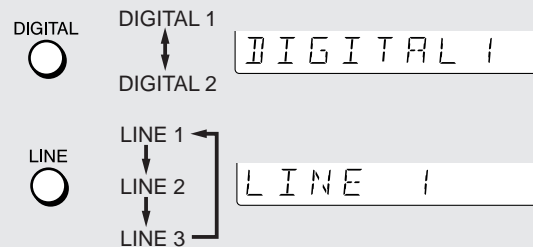
LINE入力 1 2 3

－ ＋
音量

お知らせ..................
音量を上げすぎると、保護回路が働き、電源が切れることがあります。
そのときは、音量を下げてください。

1 接続した機器の電源を入れる。

2 POWER を押して、本機の電源を入れる。

3 DIGITAL または LINE をくり返し押して、入力を選ぶ。

リモコンの デジタル入力 1 2 または LINE入力 1 2 3 を使うと直接、入力を切り換えることができます。

4 接続した機器を再生する。

5 VOLUME で音量を調整する。（☞ P.20）

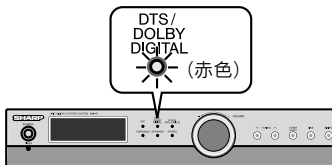
いろいろな音声を楽しむ

この製品は、ドルビーデジタル方式・DTS方式・デジタル放送のAAC方式に対応した各種デコーダーを搭載していますので、臨場感あふれる迫力のあるサウンドをお楽しみいただけます。

DOLBY DIGITAL（ドルビー デジタル）

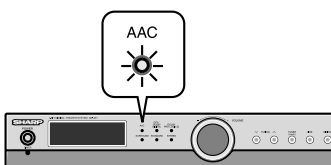
上記マークつきディスクのデジタル入力

劇場向けデジタル音声システムの1つです。立体的な音響効果が得られ、本格的なホームシアターシステムが楽しめます。

ドルビーデジタル方式の音声が入力されると、本機のDOLBY DIGITAL（ドルビー デジタル）信号表示が **"緑色"** に点灯します。

DTS (Digital Theater Systems)（デジタル シアター システムズ）

上記マークつきディスクのデジタル入力

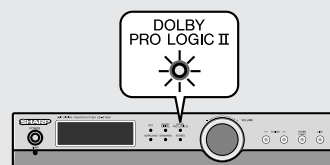
劇場向けデジタル音声システムの1つです。低圧縮率のため、よりリアルな音響効果が得られ、本格的なホームシアターシステムが楽しめます。

DTS方式の音声が入力されると、本機のDTS信号表示が **"赤色"** に点灯します。

AAC (Advanced Audio Coding)（アドバンスド オーディオ コーディング）

AAC

BSデジタル放送

BSデジタル放送に採用されるデジタル音声システムです。デジタルチューナーを光デジタルケーブルを使って接続したときは、最大5.1chの高音質が楽しめます。

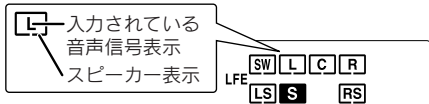
AAC方式で放送されているデジタル放送の音声が入力されると、本機のAAC信号表示が点灯します。

2ch ステレオ音声を5.1chサラウンドに拡張するドルビープロロジックIIも搭載しています。

DOLBY PRO LOGIC II（ドルビー プロ ロジック）

ステレオ音声で録音されているディスクやビデオテープなどの入力

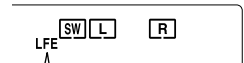
ステレオ音声で録音されているディスクやビデオテープなどの2ch音声が入力されると、ドルビープロロジックIIにより、5.1chのサラウンド音声に拡張され、立体的な音響効果が得られます。

ドルビープロロジックIIが働くと、本機のDOLBY PRO LOGIC II（ドルビー プロ ロジック）表示が点灯します。

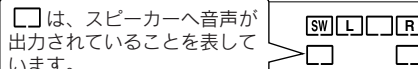
操作方法は次のページへ

音声信号表示やスピーカー表示について

入力されている音声信号に応じて音声信号表示が点灯し、スピーカーへの出力状態に応じてスピーカー表示が点灯します。

"S" は、サラウンドスピーカーの入力信号がモノラルのときに点灯します。

例えば

2.1chディスクに記録されている音声信号（L・R・LFE）が入力されているときは、音声信号表示の "L"、"R"、"LFE" が点灯します。

（右図ではL、Rの2chで再生していることを表わしています。）

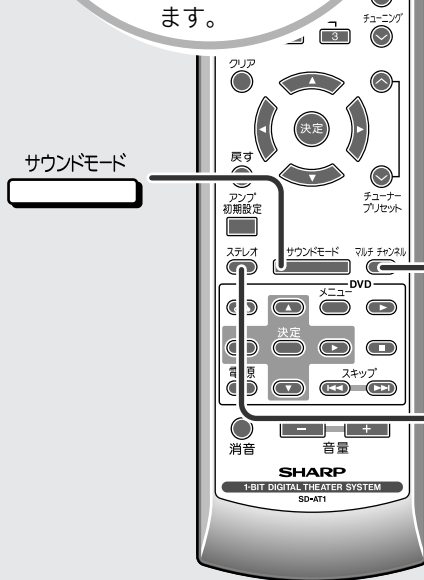
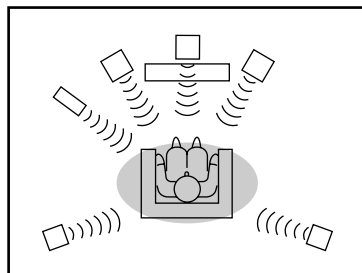
ドルビープロロジックIIが働くと

2ch音声が5.1chサラウンドに拡張されたときは、全てのスピーカー表示（□）が点灯します。

□は、スピーカーへ音声が出力されていることを表しています。

SW L □ R
□ □

いろいろな音声を楽しむ

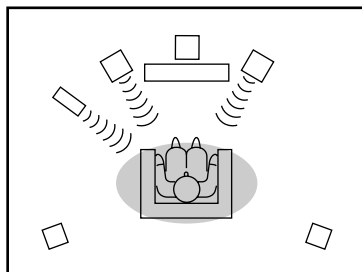
DVDプレーヤーやデジタルチューナーをDIGITAL IN（デジタル イン） 1/2端子へ接続して音声を聞くと、ドルビーデジタル方式・DTS方式・AAC方式で記録された音声を広がりのある音で楽しむことができます。また、2chのステレオ音声もドルビープロロジックIIで広がりのある音を楽しむことができます。

サウンドモード

マルチチャンネル(5.1ch など)で聞くとき

マルチ チャンネルを押す。

最大5.1chのサラウンド音声が再生され、立体的な音響効果が楽しめます。

CDなどの2chステレオ音声もドルビープロロジックIIで5.1chに拡張します。

このモードで、サラウンドの種類を切り換えることができます。

ステレオ(2ch)で聞くとき

ステレオを押す。

左右のフロントスピーカーとサブウーハーからの音響効果が楽しめます。

このモードで、

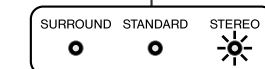
低音の強弱を切り換えることができます。

ドルビーデジタル方式・DTS方式・AAC方式の信号が入力されているときは、「SURROUND（サラウンド）」は選べません。

を押す。

押すたびに切り換わります。

BASS ON　低音を強調します。

BASS OFF　低音の強調は解除されます。

5.1chサラウンドを楽しむときのお願い

接続方法を確認してください。

DVDプレーヤーやデジタルチューナーをLINE IN（ライン イン） 1/2/3端子へ接続している場合は、ドルビーデジタル方式・DTS方式・AAC方式の音声を楽しむことはできません。ドルビーデジタル方式・DTS方式・AAC方式の音声を楽しむときは、DIGITAL IN（デジタル イン） 1/2端子へ光デジタルケーブルで接続してください。（☞ P.16）

接続する機器の設定を確認してください。

- **接続したDVDプレーヤーやデジタルチューナーなどのデジタル音声出力は、「ビットストリーム（マルチチャンネル用）」に設定してください。**
- **接続したプレーヤーの設定で、ドルビーデジタル方式やDTS方式の音声を選択してください。**

お知らせ

- 「SURROUND（サラウンド）」に設定しているときに、ドルビーデジタル方式・DTS方式・AAC方式の音声が入力されるとサラウンドは自動的に「STANDARD（スタンダード）」になります。
- 「STEREO（ステレオ）」や「SURROUND（サラウンド）」のときは、DOLBY（ドルビー） PRO（プロ） LOGIC（ロジック） II 表示は消灯します。
- ディスクの中には、サンプリング周波数が96kHzで記録されたものがあります。このようなディスクを再生したときは、自動的に「STEREO（ステレオ）」に切り換わります。また、再生中はサラウンドの切り換えができません。
- モノラル信号をマルチチャンネルモードで再生したときは、センタースピーカーとサブウーハーのみ音声がでます。
- モノラル信号をステレオモードで再生したときは、フロントスピーカー(L、R)から同じ音声がでます。
- AM放送受信中は、マルチチャンネルモードに切り換えることはできません。ステレオモードになります。
- 「STANDARD（スタンダード）」や「SURROUND（サラウンド）」のときに、AM放送を受信すると、表示は「STEREO（ステレオ）」に切り換わりますが、AM放送はモノラルで受信しています。

スピーカーディレイやスピーカー音量レベルを調整する

スピーカーを均等に配置できないときは、スピーカーの設定を変更して、均等に配置したときと同じようなサラウンド効果を楽しむことができます。

例えば､右のサラウンドスピーカーが視聴位置から3m離れているときは、次のような方法で設定を変更してください。（SRを調整します。）

1 **「スピーカーディレイの設定」**で右のサラウンドスピーカー（SR）の設定を3.0mにします。

2 他のスピーカーに比べて少し遠いので､**「スピーカー音量レベルの設定」**で右のサラウンドスピーカー（SR）の音量レベルを少し大きくします。

3 **「テストトーンでの確認」**で各スピーカーの音を確認します。

設定方法

■ スピーカーディレイの設定

スピーカーディレイを調整すると､スピーカーとの距離のちがいによる音の遅延を補正して各スピーカーを等距離に設置できないときでも､等距離に設置したときと同じような効果が得られます。

1 **アンプ初期設定を押し､◀または▶で“SP DELAY（ディレイ）”を選び､決定を押す。**

2 30秒以内に…

◀または▶を押して、調整したいスピーカーを選ぶ。

3 30秒以内に…

▲または▼で距離を選び､決定を押す。

SR 3.0M

- 距離の調整は、0.1m単位で切り換えることができます。
- 他のスピーカーのディレイを調整するときは､上の操作2からくり返してください。

4 **戻すを2回押す。**

アンプの初期設定を終了します。

スピーカーの種類		調整範囲	初期値
FL	フロントスピーカー「左」	0.1～9.0m	2m
CT	センタースピーカー	0.1～9.0m	2m
FR	フロントスピーカー「右」	0.1～9.0m	2m
SR	サラウンドスピーカー「右」	0.1～9.0m	2m
SL	サラウンドスピーカー「左」	0.1～9.0m	2m
SW	サブウーハー	0.1～9.0m	2m

お知らせ

- サラウンドの設定が「STEREO（ステレオ）」のときや、AM放送受信中は、フロントスピーカーとサブウーハーの設定しかできません。
- サブウーハーの距離の設定を変更すると､アンプ内蔵サブウーハー出力端子に接続されたサブウーハーも同じ設定になります。
別々に設定することはできません。

■ スピーカー音量レベルの設定

各スピーカーから聞こえる大きさが合っていないときは、同じような音量レベルに調整することができます。

❶ アンプ初期設定 を押し、◀ または ▶ で "SP LEVEL（レベル）" を選び、決定 を押す。

❷ 10 秒以内に…

◀ または ▶ を押して、調整したいスピーカーを選ぶ。

❸ 10 秒以内に…

▲ または ▼ を押して、音量レベルを調整する。

SR + 1dB

- 音量レベルの調整は、1dB単位で切り換えることができます。
- 他のスピーカーの音量レベルを調整するときは、上の操作❷からくり返してください。

❹ 戻す を 2 回押す。

アンプの初期設定を終了します。

スピーカーの種類		調整範囲	初期値
FL	フロントスピーカー「左」	− 6dB ～＋ 6dB	0dB
CT	センタースピーカー	− 6dB ～＋ 6dB	0dB
FR	フロントスピーカー「右」	− 6dB ～＋ 6dB	0dB
SR	サラウンドスピーカー「右」	− 6dB ～＋ 6dB	0dB
SL	サラウンドスピーカー「左」	− 6dB ～＋ 6dB	0dB
SW	サブウーハー	− 10dB ～＋ 10dB	＋ 6dB

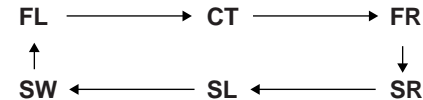
お知らせ

- サラウンドの設定が「STEREO（ステレオ）」のときや、AM 放送受信中は、フロントスピーカーとサブウーハーの設定しかできません。
- サブウーハーの音が大きすぎて歪むときは、サブウーハーのレベルを下げてください。
- サブウーハーのレベルの設定を変更すると、アンプ内蔵サブウーハー出力端子に接続されたサブウーハーも同じ設定になります。別々に設定することはできません。

■ テストトーンでの確認

調整したあとは、各スピーカーに一定音（「ザー」と言う音）を出し、音の確認ができます。
（このとき、「スピーカー音量レベルの設定」で調整した音量レベルを再調整することができます。）
各スピーカーの音量感が同じになるように調整してください。

❶ アンプ初期設定 を押し、◀ または ▶ で "TONE（トーン）" を選び、決定 を押す。

フロントスピーカー「左」から順に、2 秒間のテストトーン（「ザー」と言う音）を各スピーカーにくり返し出力します。

❷ もし、レベル調整が合っていなければ、再度調整する。

テストトーン出力中に…

◀ または ▶ を押すと、スピーカーを選ぶことができます。

▲ または ▼ を押すと、スピーカー音量レベルを調整することができます。

❸ 戻す を 2 回押す。

アンプの初期設定を終了します。

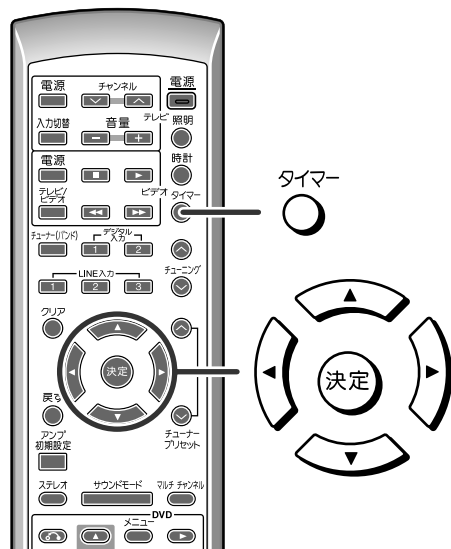
お知らせ

サラウンドの設定が「STEREO（ステレオ）」のときや、AM 放送受信中は、フロントスピーカーとサブウーハーの確認しかできません。

タイマーを使う

タイマーを設定しておくと、朝起きるときなど、目覚ましとして使えて便利です。

タイマーを使う前に

1. 時計を合わせてください。（☞ P.21）
   時計を合わせていないと、タイマーは使用できません。
2. 放送局を登録してください。（☞ P.23）

お知らせ

この製品のタイマーで、他の機器を操作することはできません。他の機器の音声を用いて、タイマーを使うときは、接続している機器もタイマー開始の設定をしておく必要があります。

設定方法

1 電源を入れて…タイマー を押す。

TIMER STANDBY

“TIMER STANDBY” が表示されないときは、時計を合わせてください。

2 10秒以内に… ◀ または ▶ で “TIMER SET” を選び、決定 を押す。

TIMER SET

3 ▲ または ▼ で開始時刻の “時” を合わせ、決定 を押す。

AM 7:00

4 ▲ または ▼ で開始時刻の “分” を合わせ、決定 を押す。

開始時刻が設定され、**“時”** が1時間増えて、終了時刻に切り換わります。

ON AM 7:30

OFF AM 8:30

5 上の操作 3～4 と同じ手順で、終了時刻を設定する。

6 ▲ または ▼ で入力を切り換えて、決定 を押す。

DIGITAL 1 ↔ DIGITAL 2 ↔ LINE 1
↕ ↕
TUNER ↔ LINE 3 ↔ LINE 2

- 「TUNER」を選んだときは、▲ または ▼ で登録した放送局を選び、決定 を押してください。
- 放送局を登録していないときは “NO P-SET” と表示されます。

7 ▲ または ▼ で音量を調整して、決定 を押す。

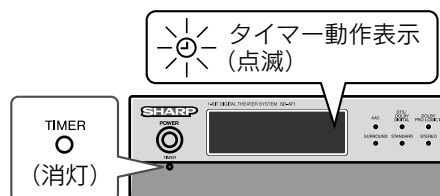
設定内容が順に表示されたあと、電源が切れます。

- タイマーの待機状態になります。
  （タイマー設定表示が点灯します。☞ P.31）
- タイマーの設定内容は、一度設定すると覚えています。

タイマー設定したあとの動作について

① タイマーを設定したあとは…

タイマーの待機状態になっています。

② タイマー開始時刻になると…

タイマー動作が始まります。
音量は徐々に大きくなります。

③ タイマー終了時刻になると…

電源が自動的に切れます。

お知らせ

- タイマーを設定したあとに、電源コードを抜いたり、停電になると、時計の設定は消え、タイマーの設定も解除されます。そのときは、もう一度、時計設定とタイマー設定をやり直してください。
- タイマーの開始時刻に電源が入っていると、タイマー動作は始まりません。

タイマーの待機状態のときに…

タイマー設定の内容を確認したいとき

1 タイマーの待機状態のときに…
タイマー ○ を押す。

2 10秒以内に…
◀ または ▶ で“TIMER CALL”（タイマー コール）を選び、決定を押す。
設定内容が順に表示されたあと、タイマーの待機状態に戻ります。

タイマーを解除したいとき

タイマーの待機状態のときに、電源を入れると解除されます。
電源を入れずに、次の操作でも解除できます。

1 タイマー ○ を押す。
“TIMER CANCEL”（タイマー キャンセル）が表示されます。

2 10秒以内に… 決定を押す。
タイマーは解除されます。
（設定した内容は消えません。）

タイマー動作が終わったあとに、同じ設定内容で再びタイマーを使うとき…

同じ内容で使うには

タイマーの内容は、一度設定すると覚えています。
内容を変えないときは、次の操作で動作します。

1 電源を入れて… タイマー ○ を押す。
“TIMER STANDBY”（タイマー スタンバイ）が表示されます。

2 10秒以内に… 決定を押す。
設定内容が順に表示されたあと、タイマーの待機状態になります。

内容を変えて使うには

電源を入れて…
「タイマーを使う」の操作 ❶ からやり直してください。（☞ P.30）

おやすみタイマーを使う

音声を楽しみながら、設定した時間で電源を切ることができます。(スリープ)

❶ 再生中に…

タイマー を押す。

TIMER STANDBY

❷ 10秒以内に…

◀ または ▶ を押して、"SLEEP SET"(スリープ セット)を選び 決定 を押す。

SLEEP SET

❸ ▲ または ▼ を押して、スリープ時間を選ぶ。

• 1分から2時間まで設定できます。
• 5分から2時間までは5分単位で、1分から5分までは1分単位で設定できます。

❹ 決定 を押す。

スリープ動作が始まります。

スリープ終了時刻になると

再生が終わり、電源が切れます。

終了1分前になると、音量が徐々に小さくなります。
このとき、音量を変えることはできません。

お知らせ……

この製品のスリープで他の機器を操作することはできません。
他の機器の音声を用いて、スリープするときは、接続している機器もスリープの設定をしておく必要があります。

スリープ中に残り時間を確認するには

1 "SLEEP"(スリープ) の点灯中に… タイマー を押す。

2 10秒以内に…

◀ または ▶ で "SLEEP"(スリープ) を選ぶ。

• 約10秒後にもとの表示に戻ります。
• スリープ残り時間が表示されているときに 決定 を押すと、時間を変更することができます。(左の操作❸～❹)

スリープを解除するには

"SLEEP"(スリープ) の点灯中に電源を切ると、スリープは解除されます。
電源を切らずに次の操作でも解除できます。

1 タイマー を押す。

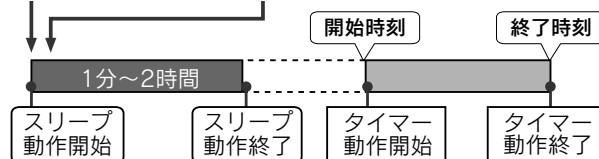
2 10秒以内に…

◀ または ▶ で "SLEEP OFF"(スリープ オフ) を選び、決定 を押す。("SLEEP"(スリープ) 消灯)

■ おやすみタイマーとタイマーを組み合わせて使う

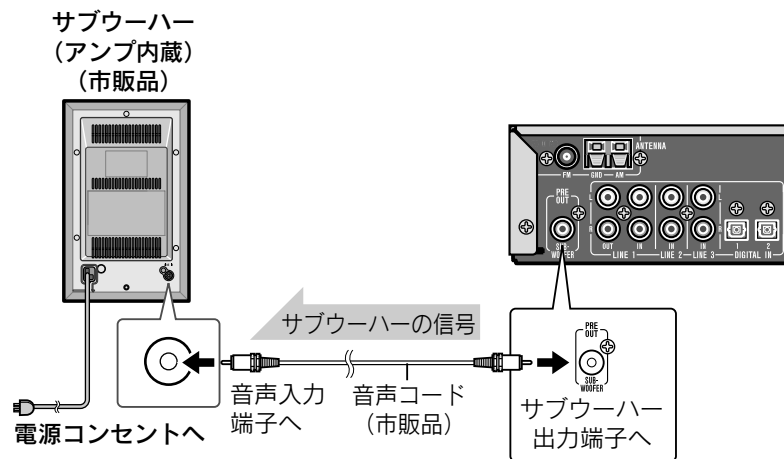
たとえば、ラジオ放送を聞きながらおやすみになり、次の日の朝、ラジオの音楽で目覚ましをすることができます。

1 **スリープを設定する。**(左の操作❶～❹)
スリープ動作が開始されます。

2 **タイマーを設定する。**(☞ P.30:操作❶～❼)
スリープの設定時間にタイマーの開始時刻が重ならないように設定してください。

アンプ内蔵サブウーハーを使うとき

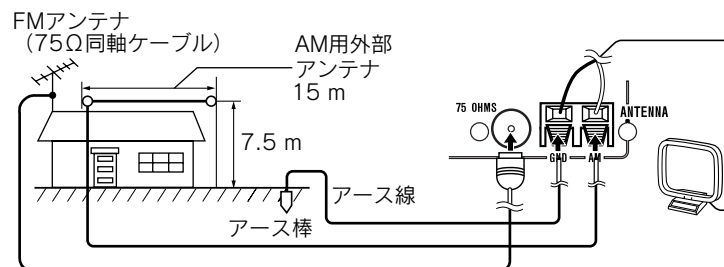
サブウーハー出力端子に、市販のアンプ内蔵サブウーハーをつなぐことができます。

- 音声コードは付属されていません。市販品をお買い求めください。
- 音声コードは、抵抗の入っていないものをお買い求めください。
  抵抗の入っている音声コードを使うと音が小さくなります。

接続するときは､それぞれの機器の電源を切った状態で行ってください。

お知らせ

- サブウーハー出力端子にアンプを内蔵していないサブウーハーを接続しても音は出ません。
- 付属のサブウーハーを使用しないときは､本体からスピーカーコードを抜いておいてください。
- 付属のサブウーハーとアンプ内蔵サブウーハーを両方とも接続すると、両方から音が出ます。
  また、スピーカーの設定(☞ P.28, 29）を変更すると、両方同時に設定されます。

屋外アンテナを使うとき

付属のアンテナでラジオ放送がきれいに聞こえないときは、
屋外アンテナを設置することができます。

- アンテナ工事には、技術と経験が必要です。また、高い所での作業は危険です。設置するときは、販売店に相談してください。
- AM用外部アンテナを接続するときは、AM用ループアンテナを接続したままにしておいてください。

屋外アンテナの設置場所について

- 放送局の送信アンテナがある方向に立てます。
- ビルや山のかげなど､障害物がある所では､最もよく受信できる所に立てて方向も変えてみます。
- 自動車や電車の雑音が入らないよう､道路や線路から離れた所､またはそれらが見えない所に立てるようにしてください。
- 送電線の下には立てないでください。
  送電線にアンテナが触れると大変危険です。
- 落雷のおそれがありますので、あまり高い所には立てないでください。

アース棒について

アースの接続（接地）は、万一の感電事故を防止することができます。
アース棒を地中に埋めるか、または鉄製の水道管につないでください。
危険ですので、ガス管にはつながないでください。

“故障かな？”と思ったら

次のようなときは故障ではないことがありますので、修理を依頼される前に、もう一度お調べください。それでも具合の悪いときは、38ページの「**保証とアフターサービス**」をごらんのうえ修理を依頼してください。

■ 共通

		参照ページ
スピーカーから音が出ない	➡ 音量が「0」になっていませんか。 ➡ ヘッドホンをつないでいませんか。 ➡ スピーカーは正しく接続されていますか。	P.20 P.20 P.15
スピーカーの音にばらつきがある	➡ スピーカーコードの ⊕、⊖ をまちがえていませんか。 ➡ 各スピーカーをお聞きの位置から等距離に設置していますか。 ➡ スピーカー音量レベルが合っていますか。	P.15 P.18 P.29
再生中に雑音が出る	➡ パソコン・携帯電話などの機器が本機の近くにある場合は、離してください。	――
ボタンを押しているうちに正常な動作をしなくなった	➡ 一度、電源を切り、操作をやり直してください。それでも動作しないときは、リセット操作をしてください。	P.35
タイマーが動作しない	➡ 電源コードを抜いたり、停電がありませんでしたか。 時計とタイマーを合わせ直してください。	P.21、30
時刻の確認をしたときに“ADJUST（アジャスト）”が表示される	➡ 電源コードを抜いたり、停電がありませんでしたか。 時計を合わせ直してください。	P.21
表示部が暗い	➡ 表示部を暗く設定していませんか。	P.20
電源が入らない	➡ 電源プラグがコンセントからはずれていませんか。 ➡ 保護回路が働いていることがあります。電源プラグをコンセントから抜き、5分以上たってから再び差し込んでください。	P.17 P.35

■ ラジオ

		参照ページ
放送に“シー”、“ザー”という連続音が入る	➡ テレビやコンピュータ、ワープロなどの近くでラジオ放送を受信すると雑音が入ります。このようなときは、雑音の発生しやすい所から離してみてください。 ➡ アンテナの方向が悪くありませんか。	―― P.15
放送がよく受信できない雑音も多い	➡ アンテナ線の近くに電源コードがある場合は離してください。 ➡ 受信状態が改善されない場合は、屋外アンテナを設置する方法もあります。	―― P.33
登録した放送局を呼び出すことができない	➡ 電源コードを抜いたり、停電がありませんでしたか。登録し直してください。 ➡ リセット操作をしませんでしたか。登録し直してください。	P.23 P.35

■ リモコン

		参照ページ
リモコンで操作できないまたは、正しい動作をしない	➡ 乾電池の ⊕、⊖ の向きが逆になっていませんか。 ➡ 乾電池が消耗していませんか。 ➡ リモコンの送信部を本機のリモコン受信部に正しく向けていますか。 ➡ リモコン受信部との距離が遠すぎませんか。または、近すぎませんか。 ➡ 本機の前に障害物はありませんか。 ➡ リモコン受信部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光など）があたっていませんか。 ➡ 他の機器のリモコンを同時に操作していませんか。	P.19 ―― P.19 P.19 P.19 P.19 ――
リモコンで電源が入らない	➡ 電源コードはつながっていますか。 ➡ 乾電池は入っていますか。	P.17 P.19

■ エラーメッセージについて

操作を誤ったときなどに、本体表示部に次のような表示がでます。

本体表示	エラーの内容
DSP NG	・サラウンド回路の動作不良。 近くに雑音を発生するものがあれば本体から離したり、電源プラグの差し込み位置を変えてみる。（※）
FAN LOCK	・本体背面の空冷ファンに異物がはさまり回らない。 電源を切って、空冷ファン周辺の異物を取り除いてみる。
NOSIGNAL	・デジタル音声入力端子の接続不良。 ・電源を切って、コードが正しく接続されているか確かめてみる。 ・規格外の信号で認識することができない。

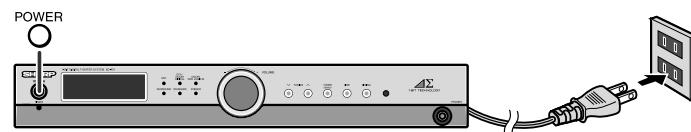
（※）電源プラグを差し込み直したり、電源を入れ直しても、同じ表示がでるときは、38ページの「**保証とアフターサービス**」をごらんのうえ、修理を依頼してください。

異常が起きたら

この製品を使用中に、強い外来ノイズ（衝撃、過大な静電気、または落雷による電源電圧の異常など）を受けたときや誤った操作をしたときなどに、正しく表示しなくなったり、操作を受けつけなくなるなどの異常が発生することがあります。
このようなときは、次のようにリセット操作をしてください。

<リセット操作>

1 **電源コードをコンセントから抜きます。**

2 POWER ◯ **を押したまま、電源コードを差し込みます。**
このとき、電源は入りません。

3 **もう一度、**POWER ◯ **を押し、電源を入れてください。**

ご 注 意
リセット操作をすると、登録した内容は消え、各種の設定はお買いあげ時の状態に戻ります。

<アンプの保護回路が働いたとき>

音量を上げすぎたり、スピーカーコードの接続が間違っていると、保護回路が働くようになっています。
保護回路が働くと、電源が自動的に切れて、タイマー設定表示が点滅します。
一度電源コードをコンセントから抜いて、スピーカーコードが正しく接続されているか確認してください。5分以上たってから再び電源コードを差し込み、音量を上げすぎていた場合は、音量を少し下げてください。

仕様について

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

本体

実用最大出力	総合 600W フロントスピーカー： 100W + 100W (JEITA ※) センタースピーカー： 100W (JEITA ※) サラウンドスピーカー： 100W + 100W (JEITA ※) サブウーハー： 100W (JEITA ※)
A/D ノイズ シェーピング	７次ΔΣ（デルタシグマ変調）
チューナー 受信周波数	FM： 76.0 ～ 108.0 MHz (TV 音声 1 ～ 3CH) AM： 522 ～ 1,629 kHz
音声入力端子	デジタル入力：光× 2（DIGITAL1/2） アナログ入力：ピンジャック (L/R)× 3 (LINE1/2/3)
音声出力端子	スピーカー出力：4 Ω（ソケットタイプ、6チャンネル） ヘッドホン出力：16 Ω～ 50 Ω（推奨 32 Ω） 直径6.4mmステレオ標準ジャック×1 サブウーハープリアウト：ピンジャック× 1 アナログ出力：ピンジャック（L/R）× 1
電源	100V AC、50/60Hz
消費電力	130W（待機時消費電力 0.35W）
最大外形寸法	430mm(幅)× 67mm(高さ)× 324mm(奥行)(JEITA ※)
質量	約 4kg

リモコン

電源	DC3V（付属単 3 乾電池× 2 個）

※ 実用最大出力、最大外形寸法は、JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

フロントスピーカー

形式	フルレンジスピーカー［防磁設計(JEITA)］8cm × 2
最大入力	100W
インピーダンス	4 Ω
最大外形寸法	105mm(幅)×251mm(高さ)×125mm(奥行)(JEITA※)
質量	約 1.5kg

センタースピーカー

形式	フルレンジスピーカー［防磁設計(JEITA)］8cm × 2
最大入力	100W
インピーダンス	4 Ω
最大外形寸法	251mm(幅)×105mm(高さ)×125mm(奥行)(JEITA※)
質量	約 1.5kg

サラウンドスピーカー

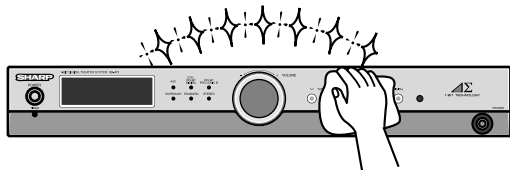
形式	フルレンジスピーカー　8cm × 1
最大入力	100W
インピーダンス	4 Ω
最大外形寸法	105mm(幅)×251mm(高さ)×125mm(奥行)(JEITA※)
質量	約 0.9kg

サブウーハー

形式	16cm ウーハー［防磁設計(JEITA)］
最大入力	100W
インピーダンス	4 Ω
最大外形寸法	240mm(幅)×408mm(高さ)×306mm(奥行)(JEITA※)
質量	約 6.3kg

お手入れについて

■ 本体のお手入れ

やわらかい布で軽くふき取ってください。
汚れがひどいときは、水にひたした布をよくしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。

ご 注 意

ベンジンやシンナー、アルコールなどの化学薬品は使わないでください。また、殺虫剤などの揮発性のあるものをかけないでください。表面の仕上げをいためたり、変色の原因となることがあります。

別売品について

この製品を正しく動作させるために、別売品は指定のものをお使いください。
スピーカーの取り付けかたについては、スタンドやブラケットの取扱説明書をごらんください。

フロアー型スピーカースタンド	壁掛け用スピーカーブラケット	光デジタルケーブル
形名：AD-AT11ST	形名：AD-AT10SA	形名：AD-M3DC 角型プラグ 角型プラグ コードの長さ：約 1m

別売品の形状はイラストと異なることがあります。

さくいん

保証とアフターサービス（よくお読みください）

保証書（別添）

- 保証書は「お買いあげ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取ってください。
  保証書は内容をよくお読みの後、大切に保存してください。
- **保証期間**
  お買いあげの日から１年間です。
  保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。

補修用性能部品の保有期間

- 当社は、この1ビットデジタルシアターシステムの補修用性能部品を製造打切後、８年保有しています。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

- 修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買いあげの販売店、またはもよりのシャープお客様ご相談窓口（39ページ）にお問い合わせください。

愛情点検	長年ご使用の機器の点検を！	
	このような症状はありませんか？	● 電源コードやプラグが異常に熱い ● コゲくさい臭いがする ● 電源コードに深いキズや変形がある ● その他の異常や故障がある

ご使用中止

故障や事故防止のため、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いて、必ず販売店に点検をご依頼ください。なお、点検・修理に要する費用は、販売店にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

- 「“故障かな？”と思ったら」（34、35 ページ）を調べてください。
  それでも異常があるときは、使用をやめて、必ず電源プラグを抜いてから、お買いあげの販売店にご連絡ください。

■ ご連絡していただきたい内容

品　　名：1ビットデジタルシアターシステム
形　　名：SD-AT1
お買いあげ日　（ 年 月 日）
故障の状況　（できるだけ具体的に）
ご　住　所　（付近の目印も合わせてお知らせください。）

お　名　前
電話番号
ご訪問希望日

■ 便利メモ

お客様へ…
お買いあげ日・販売店名を記入されると便利です。

お買いあげ日	販売店名
年　月　日	電　話（　　　　）　　－

■ 保証期間中

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

■ 保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できるときには、ご希望により有料で修理させていただきます。

■ 修理料金のしくみ

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

お客様ご相談窓口のご案内

修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼は、お買いあげの販売店へご連絡ください。

転居や贈答品などで、保証書記載の販売店にご相談できない場合は、下記窓口にご相談ください。

● 製品の故障や部品のご購入に関するご相談は・・・ **修理相談センター** へ

● 製品のお取扱い方法、その他ご不明な点は・・・・・ **お客様相談センター** へ

お客様相談センター

■ 受付時間： ＊月曜～土曜：午前9時～午後6時
＊日曜・祝日：午前10時～午後5時（年末年始を除く）

東日本相談室	TEL **043-297-4649**	FAX **043-299-8280**
	〒261-8520　千葉県千葉市美浜区中瀬1-9-2	
西日本相談室	TEL **06-6621-4649**	FAX **06-6792-5993**
	〒581-8585　大阪府八尾市北亀井町3-1-72	

● 所在地・電話番号などについては変更になることがありますので、その節はご容赦願います。

修理相談センター

● **修理相談センター（沖縄･奄美地区を除く）**

■ 受付時間：＊月曜～土曜：午前9時～午後6時　＊日曜・祝日：午前10時～午後5時（年末年始を除く）

0570-02-4649
当ダイヤルは、全国どこからでも一律料金でご利用いただけます。
呼出音の前に、ＮＴＴより通話料金の目安をお知らせ致します。
（注）携帯電話・ＰＨＳからは、下記電話におかけください。

		<東日本地区>	<西日本地区>
○ 携帯電話／ＰＨＳでのご利用は・・・	（一般電話）	043-299-3863	06-6792-5511
○ ＦＡＸを送信される場合は・・・・・・・	（ＦＡＸ）	043-299-3865	06-6792-3221

○ **沖縄･奄美地区については、下表の「那覇サービスセンター」にご連絡ください。**

◎ **持込修理および部品購入のご相談**は、上記「修理相談センター」のほか、下記地区別窓口にても承っております。

■ 受付時間：＊月曜～土曜：午前9時～午後5時30分（祝日など弊社休日を除く）
〔但し、沖縄･奄美地区〕は・・・・＊月曜～金曜：午前9時～午後5時30分（祝日など弊社休日を除く）

担当地域	拠点名	電話番号	郵便番号	所在地
北海道地区	札　幌 サービスセンター	011-641-4685	〒063-0801	札幌市西区二十四軒１条7-3-17
東 北 地区	仙　台 サービスセンター	022-288-9142	〒984-0002	仙台市若林区卸町東3-1-27
関 東 地区	さいたまサービスセンター	048-666-7987	〒331-0812	さいたま市北区宮原町2-107-2
	宇都宮 サービスセンター	028-637-1179	〒320-0833	宇都宮市不動前4-2-41
	東京テクニカルセンター	03-5692-7765	〒114-0013	東京都北区東田端2-13-17
	多　摩 サービスセンター	042-586-6059	〒191-0003	日野市日野台5-5-4
	千　葉 サービスセンター	047-368-4766	〒270-2231	松戸市稔台295-1
	横浜テクニカルセンター	045-753-4647	〒235-0036	横浜市磯子区中原1-2-23
東 海 地区	静　岡 サービスセンター	0543-44-5781	〒424-0067	静岡市清水鳥坂1170-1
	名古屋 サービスセンター	052-332-2623	〒454-8721	名古屋市中川区山王3-5-5
北 陸 地区	金　沢 サービスセンター	076-249-2434	〒921-8801	石川郡野々市町御経塚4-103
近 畿 地区	京　都 サービスセンター	075-672-2378	〒601-8102	京都市南区上鳥羽菅田町48
	大阪テクニカルセンター	06-6794-5611	〒547-8510	大阪市平野区加美南3-7-19
	神　戸 サービスセンター	078-453-4651	〒658-0082	神戸市東灘区魚崎北町1-6-18
中 国 地区	広　島 サービスセンター	082-874-8149	〒731-0113	広島市安佐南区西原2-13-4
四 国 地区	高　松 サービスセンター	087-823-4901	〒760-0065	高松市朝日町6-2-8
九 州 地区	福　岡 サービスセンター	092-572-4652	〒816-0081	福岡市博多区井相田2-12-1
沖縄・奄美地区	那　覇 サービスセンター	098-861-0866	〒900-0002	那覇市曙2-10-1

● 所在地・電話番号などについては変更になることがありますので、その節はご容赦願います。

● 製品についてのお問い合わせは‥

お客様相談センター	東日本相談室	TEL **043-297-4649**	FAX **043-299-8280**
	西日本相談室	TEL **06-6621-4649**	FAX **06-6792-5993**

《受付時間》 月曜～土曜：午前９時～午後６時　日曜・祝日：午前１０時～午後５時（年末年始を除く）

● 修理のご相談は‥　39 ページ記載の『**お客様ご相談窓口のご案内**』をご参照ください。

● シャープホームページ　**http://www.sharp.co.jp/**

シャープ株式会社

本　　　　社　〒545-8522　大阪市阿倍野区長池町22番22号
AVシステム事業本部　〒329-2193　栃木県矢板市早川町174番地

Printed in Malaysia
TINSJA031AWZZ
04E R AO ①